中学１年　国語科　教材別テスト⑦　模範解答・解説

「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」（鈴木俊貴）／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語１』の「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」のページを開いたまま**解答します。筆者は動物行動学者で、この文章は**観察から生まれた問い**を**実験**によって確かめていく説明文です。したがって、物語文のような「気持ちの読み取り」ではなく、**論の進め方（問い→仮説→実験→結果→結論）**を追えているかどうかが得点の分かれ目になります。段落番号は、形式段落を上から順に①②③…と数えたものです。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問。読み10・書き10）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（同音異義語・部首名・慣用句・対義語・熟語の組み立て・四字熟語）	２点×７＝14点
	三	文法（指示語の指す内容・接続語の補充・接続語のはたらき）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① 筆者が立てた**問い**（鳴き声は「言葉」といえるのか）をつかみ、文章全体の見通しをもてるか。

② 「ジャージャー」と「ピーツピ」など、**鳴き声の使い分け**を区別して理解できているか。

③ **実験の手順**と、**その実験で確かめようとしたこと**を結びつけて説明できるか（論証構造の理解）。

④ 鳴き声が「言葉」といえる理由を、**単語（意味をもつ）**と**文法（組み合わせの決まり）**の二点で説明できるか。

⑤ **観察で終わらせず実験で確かめる**という、科学的なものの見方・筆者の研究姿勢に気づけるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	すばこ	⑪	種類
②	てんてき	⑫	関心
③	けいかい	⑬	羽
④	するど（い）	⑭	推測
⑤	おどろ（く）	⑮	群れ
⑥	かせつ	⑯	行動
⑦	しょうめい	⑰	卵
⑧	こんちゅう	⑱	林
⑨	ひそ（む）	⑲	従う
⑩	ほんやく	⑳	明らかに

小計　20点

【注意したい字】

①「巣箱」は「すばこ」。「そうばこ」は×。③「警戒」の「戒」を「械」「戎」と書きまちがえやすい。④「鋭い」⑤「驚く」⑨「潜む」は**送りがなまで**書くこと（「するど」「おどろ」だけでは×）。⑩「翻訳」の「訳」はごんべん。⑭「推測」の「推」はてへん（「堆」は×）。⑮「群れ」は送りがな「れ」が必要。⑰「卵」は中の点を二つ忘れない（「卯」は×）。⑲「従う」⑳「明らかに」も送りがなが採点対象（「従がう」は×）。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「過程」＝物事が進んでいく途中のようす・すじみち。実験の手順をたどる意味なので「過程」。イ「課程」は学校で学ぶ内容、ウ「家庭」は家、エ「仮定」はかりに決めること。**同音異義語**は意味で選び分ける。
(2)	**うまへん**	「験」の部首は「馬（うま）」。左側にあるので**うまへん**。「険」（こざとへん）などと混同しない。
(3)	**うかんむり**	「察」の部首は「宀」。「安・室・宇」などと同じ**うかんむり**。「祭」の部分ではない。
(4)	**イ**	「耳をすます」＝注意を集中して、じっと聞こうとすること。野外観察のようすを表すときによく使う慣用句。ウ「聞き流す」は反対の意味。
(5)	**結果**	原因 ⇔ 結果。この文章では「実験の結果」という形でくり返し出てくる重要語。
(6)	**イ**	「観察」＝「観る」と「察する」で**似た意味**の漢字の組み合わせ。同じ型は「道路」。ア「高低」は反対の意味、ウ「読書」は「書を読む」で下が目的、エ「青空」は上が下を修飾。
(7)	**イ**	「試行錯誤」＝あれこれ試し、失敗をくり返しながら解決の方法を見つけていくこと。研究の進め方を表す四字熟語。ア「同じ失敗をくり返す」は誤り。

小計　14点

三　指示語と接続語　（２点×８＝16点）

番号	解答	解説（考え方）
(1)	**イ**	指示語は**直前**をさがす。「それは…声だった」とつながるので、指す内容も「声」でなければならない。ウ「巣箱」を選ぶと「巣箱は声だった」となり文が成り立たない。
(2)	**ア**	「そうすると」は**前の動作**を指す。前の文の動作は「巣箱のそばにえさを置く」こと。イは「そうすると」の**後**に起こった結果なので×。
(3)	**エ**	「この方法」なので、指すのは**方法（やり方）**。前の文の「スマートフォンの地図で道を調べた」が方法。イ「迷わないこと」は方法ではなく**結果**なので×。
(4)	**ア（だから）**	前（雨が降り出した）が**理由**、後（遠足は中止になった）が**結果**。**順接**なので「だから」。
(5)	**イ（しかし）**	「何度も練習した」のに「うまく弾けなかった」と、予想とは**逆**の内容が続く。**逆接**の「しかし」。
(6)	**エ（たとえば）**	前の文（さまざまな花が咲いている）の**具体例**（桜やチューリップ）が後に示されている。**例示**の「たとえば」。「また」「なぜなら」は使わない。
(7)	**エ**	「つまり」は前の内容を**言いかえ・まとめ**て示す語。はたらきは**説明・補足**。「だから」と混同しないこと。
(8)	**イ**	「ところが」は、前から予想されることと**反対**の内容を導く。はたらきは**逆接**（「しかし・だが・けれども」と同じ仲間）。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【指示語・接続語を解くコツ】

①　指示語は**直前をさがし、見つけた言葉をあてはめて読み直す**（文が通れば正解）。②　「この**方法**」「その**理由**」のように指示語に付いた名詞が、答えの**種類**（方法か、理由か、内容か）を教えてくれる。③　接続語は、**前後の関係**を「同じ向き（順接）／逆向き（逆接）／言いかえ／例示／付け加え」のどれかに分類してから選ぶ。説明文では、接続語に印をつけながら読むと論の流れが見える。

四　「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4点	**イ**	文章の初め（序論）で、筆者は「言葉をもつのは人間だけなのか」という疑問を示し、シジュウカラの鳴き声が「**言葉**」**といえるのか**を明らかにしようとしている。ア・ウ・エは本文全体の問いではない。
(2) 3点	**イ**	「ジャージャー」は**ヘビ**という特定の相手に対して使われる鳴き声。これが「単語」の発見につながる。
(3) 3点	**ア**	「ピーツピ」は「**警戒しろ（敵に気をつけろ）**」にあたる鳴き声。「集まれ」にあたるのは「ヂヂヂヂ」。この二つの区別が(7)の語順の問題につながる。
(4) 4点	**イ**	小枝をヘビのように動かして見せ、鳴き声を**聞かせたとき／聞かせなかったとき（別の鳴き声のとき）**で反応を比べる、という手順。**条件を一つだけ変えて比べる**のが実験の基本。アのように本物の天敵（ヘビ）を使ったのではない。
(5) 5点	**（例）「ジャージャー」がヘビを表す単語かどうかということ。（26字）**	「ジャージャーがヘビを意味している（ヘビを思いうかべさせる）」という内容が書けていれば5点。 別解…（例）シジュウカラが「ジャージャー」を聞いてヘビを思いうかべること。（31字） 「鳴き声を調べること」のように**何を確かめたいのかが書かれていない**ものは2点。実験の手順をなぞっただけ（例「小枝を動かすこと」）は0点。二十五〜三十五字から外れたら－1点。
(6) 4点	**ア**	「ジャージャー」を聞かせたときだけヘビに見立てた小枝を確かめようとした、という結果から、聞いた鳴き声の種類によって行動を変えている＝鳴き声が表すもの（ヘビ）を**思いうかべている**とわかる。＝鳴き声が**単語**として意味をもつ証拠。イは結果と反対。
(7) 4点	**ウ**	順番を変えると伝わらない＝**並べ方（語順）に決まりがある**ということ。これが**文法**のはたらき。エは結果と反対なので×。

四　「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(8) 7点	**（例）鳴き声が単語として意味をもち、その組み合わせ方にも文法の決まりがあるから。(37字)**	「一つ一つの鳴き声が単語として意味をもつ」（4点）＋「組み合わせ方（語順）に文法の決まりがある」（3点）の二点で採点。 **どちらか一方だけ**しか書けていないものは部分点のみ。「単語」「文法」の語が使われていない場合は各－1点。「たくさん鳴き声があるから」は0点。三十五～四十五字から外れたら－1点。
(9) 5点	**（例）観察で生まれた推測を、確かな事実として証明できるということ。(30字)**	「推測・予想・仮説」（2点）＋「確かめる・証明する・事実として示す」（3点）の二点で採点。 「くわしく見られるから」など**観察の利点**を書いたものは0点。**見ているだけでは思いこみかもしれない**→条件を変えて比べることで確かめられる、という科学的なものの見方が書けているかを見る。二十五～三十五字から外れたら－1点。
(10) 3点	**イ**	この文章は**序論（問い）→本論（観察・仮説・実験・結果）→結論（鳴き声は言葉である）**という組み立て。初めに結論を置く「頭括型」ではないのでアは×。
(11) 4点	**（例）思いこみを捨て、疑問を実験で確かめようとする姿勢。(25字)**	「**疑問をそのままにせず、実験・調査で確かめる**」という内容が書けていれば4点。 別解…（例）動物をよく見て問いを立て、根気よく確かめ続ける姿勢。(26字) 「鳥が好きだという姿勢」など**好意・感想だけ**のものは0点。二十字以上三十字以内から外れたら－1点。
(12) 4点	**ア・イ・エ**	ウ…鳴き声は相手や場面ごとに意味が異なるので×。オ…組み合わせると意味が変わり、順番にも決まりがあったので×。**ア・イ・エの三つがそろって4点（完答）**。一つでも足りない、余分がある場合は0点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. この文章は**説明文（科学的な報告**)。筆者の気持ちではなく、**論の進み方**を追って読む。
2. 最初にあるのは**問い**。「言葉をもつのは人間だけなのか」という問いが、文章全体の柱になっている。
3. 鳴き声は**使い分け**られている。「ジャージャー」＝ヘビ、「ピーツピ」＝警戒しろ、「ヂヂヂヂ」＝集まれ。混同しやすいので表にして覚える。
4. **実験の手順**を問われたら、「**何を変えて、何と何を比べたか**」を答える。小枝を動かして見せ、聞かせる鳴き声だけを変えて反応を比べた、という形。
5. 実験には必ず**目的（確かめたいこと**）がある。手順の説明で終わらせず、「〜かどうかを確かめるため」まで書く。
6. 「言葉」といえる理由は二**つセット**。**単語**（一つ一つに意味がある）＋**文法**（組み合わせる順番に決まりがある)。片方だけでは満点にならない。
7. **観察だけでは推測、実験をして初めて証明**。ここが筆者の研究姿勢であり、この教材の最大のねらい。
8. 「人間だけが言葉をもつ」という**思いこみを疑う**のが筆者の立場。内容合致問題では、「鳴き声は一つの意味しかもたない」「順番を変えても同じ」といった**本文と逆向きの選択肢**が必ずまぎれている。